青年部だより

たっぷり楽しめた 全国青年部吟詠大会

平成30年3月25日午前11時から、春らしい好日のなか全国青年部吟詠大会が、クレオ大阪東（大阪市城東区鴫野西）において開催された。会場へのアクセスは京橋駅が最寄り駅となっている。

会場は大阪市のスポーツセンター併設施設で、少し早めの到着。ホール入り口前で入場整理券をプログラム・座席指定券・食券と交換。9時30分にホール入場。382席の会場は入場後まもなく全席ほぼ埋まった。

11時定刻通り開演。オープニングは、関西大学吟詩部女性5名による力強い「青年部の歌」の吟詠で幕開けした。

大会はその後、開会の辞・関吟会歌合吟・巻頭言唱和・大会会長挨拶と続く。

地藏哲皚総本部会長はご挨拶で、「今回の大会は、青年部の皆様が独自で計画段階から本日の開催まで準備してきた」と、その労をねぎらわれました。

挨拶の後は、役員吟詠、会場の会員全員による「富士山」の大合吟と続き、遠路中国から来日の中華吟誦学会の吟詠披露へ。

中国琴の伴奏に合わせ透き通った声で「詩経　木瓜（もっか）」を吟詠。詩文は

我に投ずるに木瓜（もっか）を以てす
之に報ゆるに瓊玉（けいぎょく）を以てす
報ゆるに匪（あら）ざる也
永く以て好みを為さんとする也
我に投ずるに木桃（もくとう）を以てす
之に報ゆるに瓊瑤（けいよう）を以てす
報ゆるに匪ざる也
永く以て好みを為さんとする也

我に投ずるに木李を以てす
之に報ゆるに瓊玖を以てす
報ゆるに匪ざる也
永く以て好みを為さんとする也

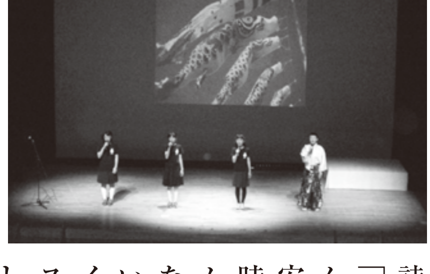
また、関西吟詩でなじみの、「楓橋夜泊」「白帝城」「静夜思」が朗詠され、朗詠から、遠路、中国からやって来られた中華吟誦学会の皆さんの「これを機会に長いお付き合いをしたいと思うのです」と、言葉は判りませんがその心のほとばしりが会場一杯に溢れてました。

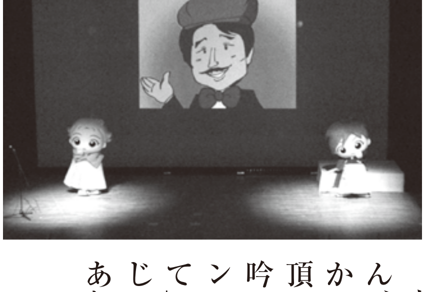
論語「先進篇」の吟誦もありました。

次に詩吟ユニット「xié」のライブ公演。「詩吟・再誕」と題し、新しい詩吟の表現スタイルを表現。詩吟は静止し吟詠するというスタイルが我々関西吟詩の感覚だが、動きを取り入れた新しい吟詠を見せた。ビジュアルで力強くて美しい言葉の響きを伝えていた。

今回の吟詠公演には珍しく、漢語・漢詩の講演も組み込まれていた。講師は大府立大学教授　張麟声先生で、「我々の知っている漢詩は「唐」の時代から詩が止まっている？　唐代から千年も経過して、平仄も発音にも変化があります」と講義。「現代中国語による『漢詩』と『唐代の近体詩の漢詩』の相違、その日本的な受け止め方は唐代のままだが、押韻の根拠である韻部が『世代交代』、平仄の根拠である声調も『世代交代』している。これに直面している今どうしましょうか」と、問題提起。

最後の公演は、「松口月城先生」の記念館の紹介と併せて、関西吟詩青年部が一年を掛けて構想を練った構成吟で、「月城　時空を超えて」と題し、福岡県が生んだ漢詩の大詩人「松口月城先生」の漢詩を、関西吟詩のゆるキャラ「かんちゃん・ぎんちゃん」に平安の時代・戦国時代になどタイムスリップさせながら紹介していくというスタイルであった。スライドを多用し、観客を飽きさせないナレーション構成など、ストーリーと吟詠を十分に楽しめた。スライドイラストで月城先生の登場と宮崎東明先生を登場させ会話を交わさせるなど端整な構成が心を和ませた。





青年部の皆さん、一日、しっかり楽しませて頂きました。関吟の新スローガン「視座を変えて」の実践が感じられた講演でありました。

広報局広報部